

第1回 がん化学療法医療チーム養成にかかる研修

# がん化学療法における看護師の役割

---

国立がんセンター中央病院  
がん化学療法看護認定看護師

朝鍋 美保子

2007.9.27

# がん化学療法における看護師の役割とは？

---

がん化学療法が、

**確実に、安全に、安楽に、**

行われることを支えること。

---

# がん化学療法における 看護師の役割の重要性

---

- がん化学療法は、患者の生命を救い、その後の人生や生活を充実して過ごすための重要な治療である。
  - 看護師はその治療の現場に直接的に深く関わっており、抗がん剤の投与が確実・安全・安楽に実施される責任を負っている。
-

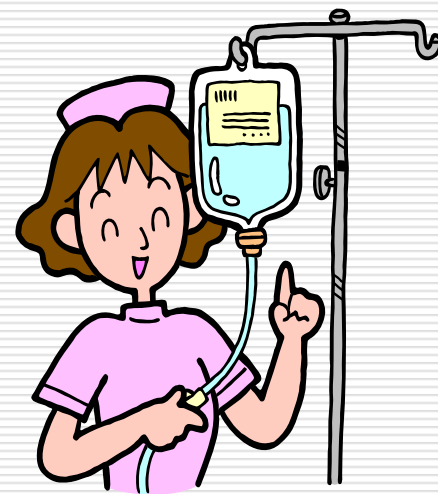
# がん化学療法を継続しながら 生活する人を支えることの意味

---

- がん化学療法は患者ががんとともに生きる中での重要な体験になる。
  - 患者と家族が主体的に取り組んでいくことが、がん化学療法の継続を支え、自己効力感を高め、コントロール感を取り戻す過程になり、がんとともに生きる力になりうる。
-

# 国立がんセンター中央病院における 外来化学療法看護の実際を例に

---



# 外来がん化学療法看護の特徴

---

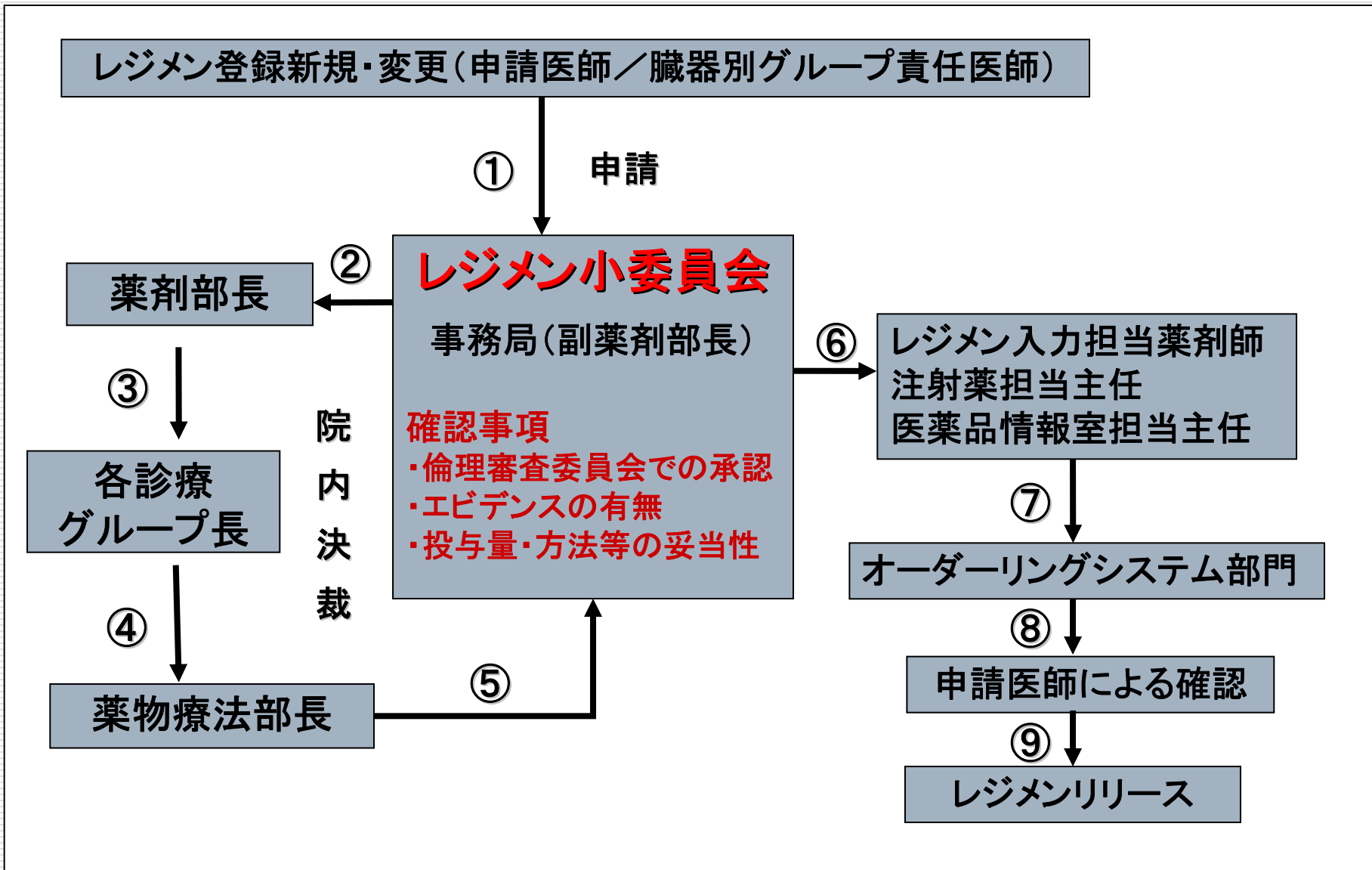
- 患者と医療者がかかわる時間が短い
  - セルフケア支援が重要なポイント
  - ささまざまな疾患に対し、多くのレジメンを実施
  - 投与管理を実施する患者の情報はすべては把握できていない(投与管理において受け持ち看護師はいない)
-

# がん化学療法が 「確実に」行われることを支える

---

- レジメン管理
  - 治療計画の理解
  - 確実な血管確保
  - 治療計画に基づいた確実な投与
  - 適切な器材の選択
  - 適切な薬剤の調整と安定性の確保
  - 血管外漏出の予防
-

# レジメン管理(院内)





# 通院治療センター内でのレジメン管理

---

申請されたレジメン(薬剤部)



レジメン管理担当看護師(認定看護師)

- レジメン内容のチェック
  - スタッフへの教育(必要時担当医師への講義依頼)
-

# 治療計画の理解

---

## 疾患別治療マニュアルの作成

- 対象疾患
  - 治療目的
  - 使用薬剤
  - 投与順序・経路・時間
  - 投与スケジュール
  - 副作用の種類・程度・発生時期
-

# がん化学療法が 「安全に」行われることを支える

---

- 安全な投与量の管理
  - 抗がん剤の曝露予防
  - 感染予防
  - 血管外漏出の予防・対処
  - 安全な器具の選択と使用方法
  - 廃棄物の処理
  - リスクマネジメント
-

# 血管外漏出の予防・対処

---

- 看護師への教育
  - 患者への教育
  - 定期的な観察
  - 血管外漏出時の速やかな対処
-

# 看護師への教育

---

- 繰り返しの治療で血管が脆弱になり、血管外漏出を起こしやすい状態である。
  - 特に起壊死性抗がん剤の投与に際しては予防と観察、症状の早期発見と適切な対処が重要である。
  - 患者の不安やQOLの低下につながる危険性がある。
  - 医療者の責任問題、患者との信頼関係の崩壊のおそれがある。
-

# 患者への教育

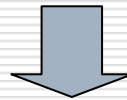
---

- 抗がん剤の血管外漏出の危険性
  - 留置針挿入部の安静の必要性
  - 血管外漏出を疑う具体的症状
  - 医療者への報告のタイミング
  - 血管外漏出時の自宅でのケア方法
-

# 定期的な観察

---

- 各治療ブース担当看護師が定期的にラウンドを行い刺入部の観察を行う
- 起壊死性抗がん剤投与時は、30分毎のラウンド
- 血管外漏出のハイリスクの患者は10～15分ごとのラウンド
- 点滴更新毎の自然滴下・逆血の有無の確認



未然に防ぐ

---

# 血管外漏出時の速やかな対処

---

- 血管外漏出時の処置に必要な物品の常備
  - 血管外漏出時の対処のマニュアル(医師マニュアル)の熟知
  - 血管外漏出時の心理的サポート
-



# リスクマネジメント

---

- 薬剤の取り扱い方法
- 患者間違い
- 針刺し事故



# 薬剤の取り扱い方法

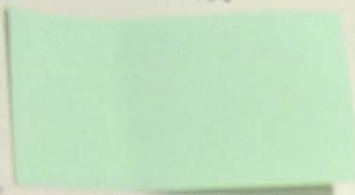
---

- 必ず診察券で患者氏名・ID番号の確認
  - 患者ごとの薬剤内容のラベル、薬剤師のダブルチェックサイン、印鑑での確認
  - 受け持ち看護師による治療予定薬剤の投与量などのチェック
  - 到着してから看護師による外来注射指示票との内容のチェック、サイン
  - 当番医と介助の看護師のダブルチェック
  - 看護師の定期的なラウンドによるチェック
-

外来注射指示票

Tse

患者ID  
カナ  
氏名



生年月日  
身長・体重  
Ccr値

14=50

様 女性

手技名称

注射箋番号：20040623-0028 (オーダー医師：清水 千佳子【乳内】)  
点滴静注

薬品名・用法・実施タイミング

用量

【療法名：AC40/500】

生理食塩液注 50mL

50 mL

カイトリル注 3mg/3mL

1 A

デカドロン注 8mg/2mL

8 mg

実施タイミング：午前

点滴速度 220ml/h：\*点滴時間 15分で

投与経路：末梢ルートイン1

(冷遮)

注射箋番号：20040623-0028 (オーダー医師：清水 千佳子【乳内】)  
点滴静注

【療法名：AC40/500】

生理食塩液注 50mL

50 mL

アドリアシン注 10mg

62 mg

実施タイミング：午前

点滴速度 200ml/h：\*点滴時間 15分で

投与経路：末梢ルートイン1

※調製指示あり

(癌)

注射箋番号：20040623-0028 (オーダー医師：清水 千佳子【乳内】)  
点滴静注

【療法名：AC40/500】

# 患者間違い

---

- 待合の患者を呼ぶ時は、必ずフルネーム
  - 患者に投与される薬剤名を確認する(〇〇の注射ですね?)
  - 患者氏名、生年月日、担当医と介助の看護師が診察券でダブル確認
  - 当番医と介助についての看護師と確認時、患者にフルネームで言って貰う
  - 他部門との問い合わせ時も必ずフルネームで
  - 1患者1トレーによる搬送取り扱い
-

# 1患者1トレーによる搬送



薬剤部  
からの  
搬送

患者のもとへ搬送  
ディスプレイ



2007/8/23

# 針刺し事故

---

- リキャップは絶対行わない。
  - 針ははずさずそのまま廃棄する。
  - 必要以上に触らない。
  - 針捨てボックスの中に入れて運搬する。
  - 医療廃棄物処理用ボックスの用意・管理
-

# 針捨てボックス

点滴スタンドに  
設置するタイプ



机の上に置く  
タイプ



# がん化学療法が 「安楽に」行われることを支える

---

- 意思決定の支援
  - 適切な支持療法の実施
  - 急性症状のアセスメントと予防・対処
    - 過敏症／アナフィラキシー
    - インフュージョン・リアクション
    - 血管外漏出
    - 急性の悪心・嘔吐
  - 治療環境の調整
  - 不安の緩和・闘病意欲の維持
  - セルフケア支援
-



# 意思決定の支援

---

## がん化学療法における意思決定場面

- 診断後の治療方針決定
  - 治療の場の変更
  - 再発・転移判明
  - ギアチェンジ                      など
-

# 意思決定を支援する看護師の役割

---

- 看護師の倫理綱領(日本看護協会2003年)  
*「看護師は、人々の知る権利及び自己決定の権利を尊重し、その権利を擁護する」*
  
  - 具体的な役割
    - 説明の場に同席する
    - 説明に関する正確な理解を促す
    - 個々の価値観・人生観に沿った選択を導く
    - 意思決定後の患者・家族を支える
    - 外来・病棟間、医師・看護師間、看護師間の連携を密にする
-

# 急性症状のアセスメントと予防・対処

## 過敏症／アナフィラキシー

---

- 看護師への教育
  - 患者への教育
  - 発生時期にあわせた観察
  - 過敏症/アナフィラキシー出現時の速やかな対処
-

# 看護師への教育

---

- 過敏症/アナフィラキシーを起こしやすい抗がん剤
  - 患者のアレルギー歴・治療歴
  - 発生時期
  - 具体的症状
  - 薬剤の種類にあわせた観察ポイント
  - 症状の早期発見と適切な対処
-

# 患者への教育

---

- 過敏症/アナフィラキシーを起こしやすい抗がん剤
- 発生時期(医療者への報告のタイミング)
- 具体的症状



# 治療環境の調整

各ブースに有線放送と絵画の設置  
ポータブルDVDとソフトの貸し出し  
各ブースで調整できる照明とエアコン  
空気清浄機3台設置  
アロマオイルの使用

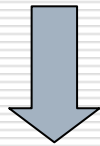


# セルフケア支援

---

なぜセルフケア支援が重要？

医療者と関わる時間が短い



副作用に対しセルフモニタリングを行う  
症状に対するケアを実践する  
生活上の変化をマネジメントする

---

# セルフケア支援の目標

---

化学療法を受ける患者が、必要な知識を得、技術を身につけ、サポートを得ることで、自らの症状を効果的にコントロールし、QOLを維持しながら治療を継続していくことができる。





# セルフケア支援のポイント

---

- 看護師のアセスメントと患者の気がかりをすりあわせ、セルフケアの優先順位を決める
  - 患者と目標を共有する(患者の言葉で目標を表してみる)
  - セルフケアの知識と技術を適切なタイミングと方法で提供する
  - 患者の症状体験を知り、それをセルフケア支援にフィードバックさせる
-

# 基本的知識を提供する

---

- 患者の反応を見ながら、必要最小限の知識の量を決定し、提供する
    - 症状はコントロールできること
    - 使っている薬の効果や副作用について
    - 根拠をわかりやすく
    - 図やパンフレットも用いる
-

# セルフケア支援に用いられる パンフレットの一例

---

## パンフレットに記載する内容

- 化学療法目的
  - 治療レジメンの適応疾患
  - スケジュール(当日の投与方法とレジメン全期間のスケジュール)
  - 抗がん剤の説明、支持療法の説明、そのレジメンの特徴的な副作用(発生頻度順に記載、発生頻度、副作用の内容、出現時期、持続時間、対策、医療者に相談する副作用症状)
  - 緊急連絡先と連絡方法
-

# 基本的技術の習得

---

- 患者の能力をアセスメントし、必要最小限の技術の量を決め、指導する
    - 必要な技術は何か、患者の意見を聞きながら明らかにする
    - 患者が正確に行え、長続きできる方法
    - 行ったことの効果を評価する技術
  - 正確に長続きできるように技術を訓練する
    - 繰り返し行い、実施しやすいように修正する
-

# 基本的看護サポートの提供

---

- 患者を理解していることやサポートする意思があることを明確に示す
  - 患者ができていることを伝え、続けられるように励ます
  - できていない部分は強要せず、代償を保証する
    - セルフケア能力があってもある程度提供する
    - 自信のない患者や不安な患者にはより頻繁に
-

## 通院治療センターにおける受け持ち看護体制

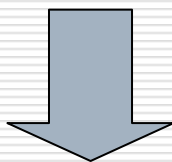
---

- 外来化学療法初回の時点で、受け持ち看護師を決定し、その後の治療にも継続してかわる。
  - 初回のオリエンテーションから、その後のセルフケア支援、精神的支援、他部門との連絡など、受け持ち看護師が中心となり行う。
  - 看護記録も、受け持ち看護師が行う。
  - 電話による相談時も、受け持ち看護師が対応する。
-

# 受け持ち看護体制のメリット

---

- 信頼関係の構築
- 継続看護
- 患者情報の把握



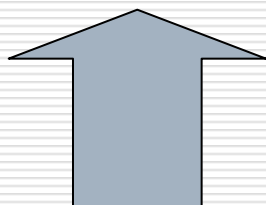
効果的なセルフケア支援

---

# 受け持ち看護体制のデメリット

---

- 看護師のスキルの違いが、そのままケアの違いとなって現れやすい



看護師への教育  
カンファレンスでの症例検討

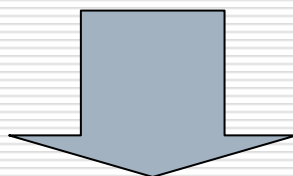
---



# 治療後フォローアップ

---

緊急時・副作用の対処など、患者自身が相談するタイミングがわからないと、医療者の介入が必要な場合でも見過ごされる可能性もある



医療者側からのフォローアップが必要

---

# 治療後電話フォローアップ体制

---

初回治療時に患者・家族からの同意を得た上で、予め確認しておいた連絡先に担当者から電話連絡を入れ、副作用の出現や症状の程度、対応策などについてのフォローアップを行う。

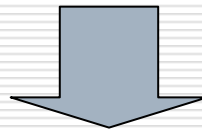
---

# 他職種との連携

---

通院治療センター管理運営委員会

(参加メンバー: 副院長、外来部長、各科医長、  
薬剤師、看護師、医事課)



2004年に発足された管理運営委員会で関係者の意見交換の場・現場の意見の吸い上げがスムーズになり、指示の統一や問題の早期解決が果たせることに繋がった。

---

# がん化学療法とチーム医療

---

# がん化学療法に関わる多職種

---

- 医師・歯科医師
  - 薬剤師
  - 栄養士
  - ソーシャルワーカー
  - 検査技師
  - 看護師間
    - 専門分野をもつ看護師の有効活用
-

# 多職種が協働することの意味

---

- 相手を知ること、よく話し合うこと
    - 効果的・効率的に役割分担するために必要
    - いろいろな側面から関わる人が理解しあっていることは、患者・家族の安心感・信頼感につながる
  - 複数の他職種が共に取り組むことの効果や、どのようにすれば効果的なチーム医療とできるのかを考えながら取り組むことが第一歩
-

---

# がん化学療法に関わる多職種による チーム医療の推進に関する提案 (国立がんセンター中央病院の案)

## 目的(取り組みの理念)

---

- がん化学療法が、「確実に」「安全に」「安楽に」行われるために、院内の多職種がそれぞれの専門性を発揮できるチーム医療を実践し、がん化学療法医療の質の向上を図る。
-



# 現状と問題点

---

1. がん化学療法全般に関して
  2. がん化学療法が確実かつ安全に行われることに関して
  3. 安楽ながん化学療法のための患者・家族支援体制に関して
-

# 目標

- **がん化学療法に関わる多職種によるチーム医療体制を強化し、実践する**
  - 確実・安全・安楽ながん化学療法のための院内の課題の明確化
  - 安全な治療環境づくり
  - 職員向けがん化学療法支援システムの構築と実施
  - 患者・家族支援システムの構築と実施
- **多職種合同チームによるがん化学療法支援体制に関する情報発信を行う**

# 具体策

- **がん化学療法支援チーム(多職種合同チーム)を編成し、活動する**
- **チームの活動内容案**
  - **院内の現状把握と課題の明確化**
  - **抗がん剤の曝露対策を含めた安全な治療環境作り**
  - **レジメン管理・運用の充実**
  - **職員向けがん化学療法支援システムの構築と実施**
  - **患者・家族への支援システムの構築と実施**
  - **多職種チームによるがん化学療法支援体制に関する情報発信**

チーム医療の推進



がん化学療法  
支援チーム  
(多職種合同チーム)  
の編成・活動



がん医療の  
均てん化に  
向けた情報発信

院内の現状把握と課題の明確化

安全な治療環境づくり

レジメン管理・運用の充実

職員向け支援体制の構築と実施

患者・家族支援体制の構築と実施

**院内の現状把握  
課題の明確化**

**抗がん剤投与管理方法**

**抗がん剤投与に関する  
患者および職員の安全性の評価  
と改善策の検討**

**抗がん剤投与に関する  
インシデント報告の内容の分析  
と対策の検討**

**患者・家族に対する  
オリエンテーション、退院指導**

---

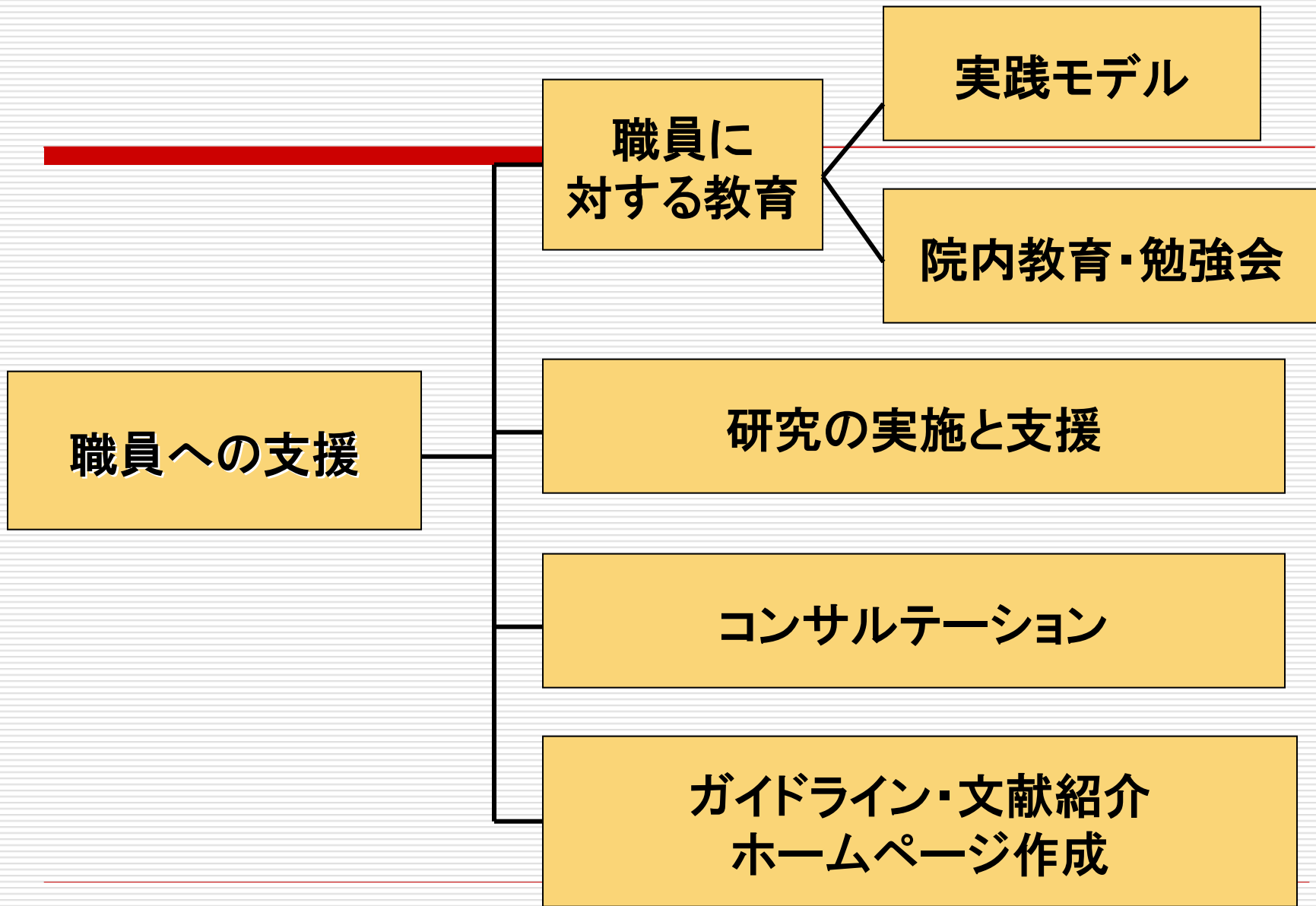
安全な治療環境

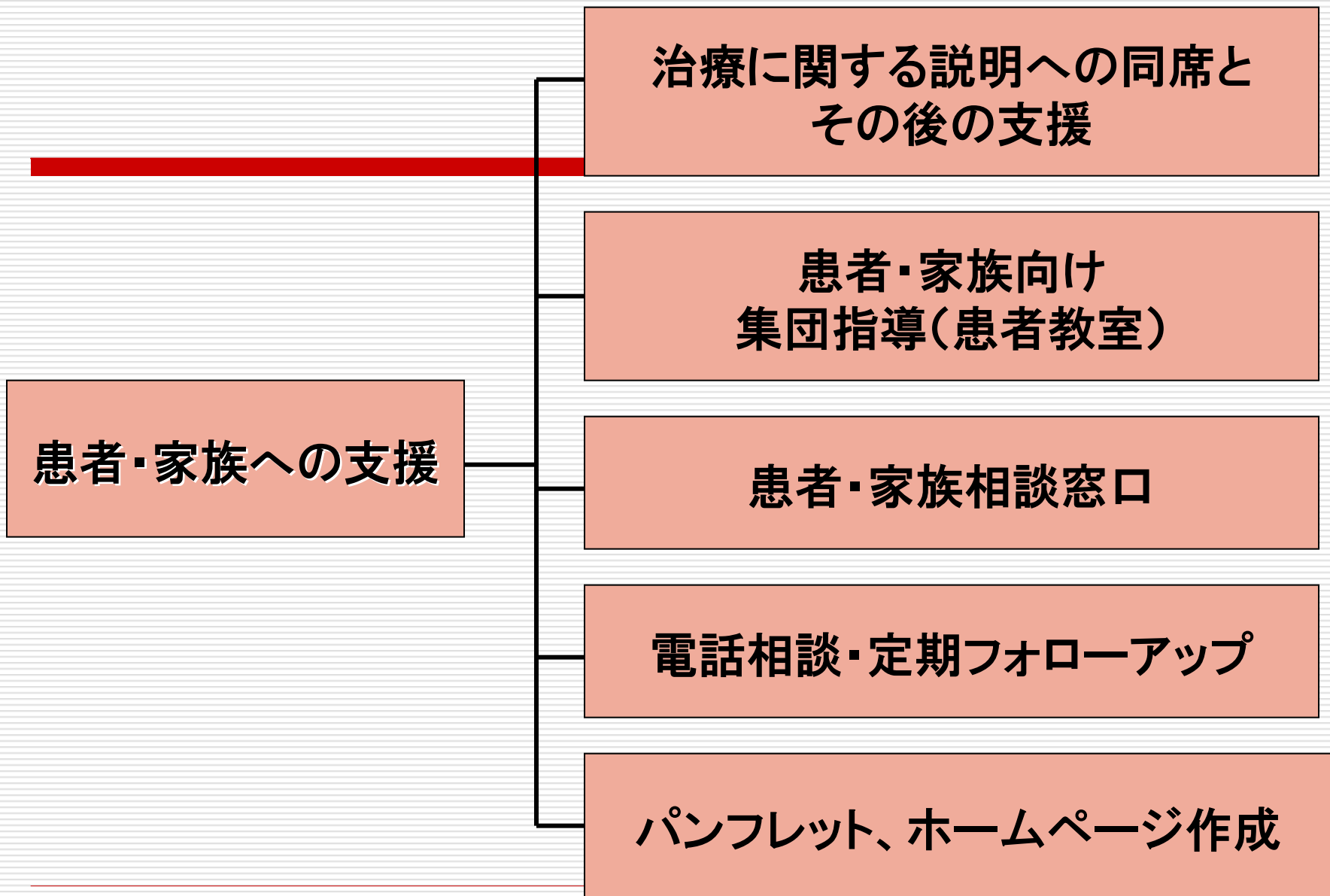
抗がん剤の安全な取り扱い方法を見直し、曝露対策を検討

抗がん剤投与を受けた患者の排泄物の取り扱いについてのガイドライン作成

抗がん剤の安全な取り扱いに関する勉強会の実施  
(院内全体の意識向上を図る)

---







活用したいリソース

# 人材

---

## 1. 多職種合同チームのコアメンバーとして

- ◆ 医師(主に化学療法を行っている診療科)
- ◆ 薬剤師
- ◆ がん化学療法看護認定看護師
  - ◆ 特に実践的な場面でのリーダーシップの発揮、実践
- ◆ がん看護専門看護師
  - ◆ 取り組みの企画・立案、全体の調整・交渉、実践
- ◆ 栄養課、臨床検査部、医療連携室からの協力も必要

## 2. 安全面に関する取り組みを中心に連携する

- ◆ 医療安全管理者
  - ◆ 感染管理認定看護師
-

活用したいリソース

# 人材

## 3. がん化学療法の実際、患者教育・支援、職員教育を中心に連携する

- ◆ 医師(主に化学療法を行っている診療科)
  - ◆ 外来や病棟での患者への説明(IC)
  - ◆ 診療時に問題を感じた患者への対応
  - ◆ その他の治療実施場面、患者教育・支援、職員教育
- ◆ 各看護単位の看護師長・副看護師長
- ◆ その他の専門・認定看護師、治験コーディネーター
- ◆ がん化学療法看護経験の豊富な看護師
- ◆ 薬剤師
- ◆ 栄養士、栄養サポートチーム
- ◆ ソーシャルワーカー
- ◆ 理学療法士

活用したいリソース

## 場(委員会等)

---

- ◆ レジメン委員会・薬事委員会
  - ◆ クリニカルパス委員会
  - ◆ 医療安全対策委員会
  - ◆ 労働安全衛生管理を行う委員会
  - ◆ 看護部委員会  
(教育、基準手順、研修)
  - ◆ 看護部専門・認定看護師等連絡会
-

活用したいリソース

# 資源／資金、時間

---

- ◆ 現在活用できるものを明らかにするための院内の現状把握を行う
  - ◆ パンフレット作成や患者教室の運営のための人材・資金
  - ◆ 具体的目標のもとで活動を展開し、成果をあげる時期を設定(ゴール設定)する
  - ◆ 活動内容に応じた人員配置、活動時間の確保
-

# がん化学療法における看護師の役割

## がん薬物療法の 安全確保

レジメンのアセスメント

薬剤投与管理

抗がん剤の安全な取り扱い

医療安全対策

患者・家族に対する適切な情報の提供とセルフケア支援

患者・家族向け集団教育(患者教室)

電話相談・定期フォローアップ

## がん薬物療法の 支持と患者支援

副作用対策

患者・家族相談窓口

パンフレット・HPの作成

# がん化学療法における がん化学療法看護認定看護師の役割

## 職員教育

がん薬物療法の  
安全確保の推進

薬剤投与管理

抗がん剤の安全な  
取り扱いの推進

インシデント報告  
内容の解析と  
対策の検討

医療安全の推進

患者・家族に対する  
適切な情報の提供と  
意思決定支援

患者・家族向け  
集団教育(患者教室)

レジメンのアッセメ  
ントと指示確認

がん薬物療法の支持と  
患者支援の推進

副作用対策

セルフケア  
支援の推進

患者・家族  
相談窓口

電話相談・定期  
フォローアップ

パンフレット・HP  
の作成

ご清聴ありがとうございました

---

